

福村晃夫先生を偲ぶ

大須賀 節雄

(東京大学名誉教授)

本学会の初代会長を務められた福村晃夫先生が去る2016年12月5日にご逝去されました。御年91歳でした。先生は大正14年広島県に生まれ、昭和24年3月名古屋大学工学部電気学科を卒業、同24年同大学助手、同34年同大学講師、同35年同大学助教授を経て同43年同大学教授に就任、電気工学第2学科電気工学第1システム工学講座を担当、その後同47年情報工学専攻計算機言語学講座、同60年情報工学科計算機言語学講座を担当、同63年停年により退職、在職中の教育上、学術上の功績により同年名誉教授の称号を授与されました。一方、名古屋大学退職後も請われて中京大学教授を務められ、私学振興に努められました。

福村先生は生涯を通して活発な研究活動を続けてこられました。その研究報告数は200編を超えております。初期においては音声の品質評価に関する理論的・実験的研究に重点が置かれ、その後音声パターン認識の研究に発展していきました。さらにその成果に基づいてパターン認識における認識パラメータの選択問題、ベイズ決定規則の評価問題などに関する基礎的研究で多くの成果をあげられました。これらの研究成果は、まだ揺籃期にあったパターン認識の研究において重要な成果として学会において評価されました。先生はこれらの成果を、昭和41年に学位論文「パターンの統計的認識に関する研究」としてまとめ、東北大学より工学博士の称号を授与されました。パターン認識に関するこれらの研究はその後も続き、文字認識、画像処理に関する研究へと発展し、後進に受け継がれています。

この頃より先生はコンピュータのハードウェアおよびソフトウェアに関する研究にも着手し、論理回路の信頼性向上に関する研究、確率オートマトン、線形空間オートマトンなどの研究、記号処理など非数値処理向きソフトウェアに関する研究、整数計画法などの数理計画法に関する研究などを行い多大の成果をあげられ、また胸部X線写真画像の自動処理などのような応用を通して現実の問題解決にも大きな影響を与えてきました。

先生はこれらの諸研究成果をベースとして人工知能、知識情報処理に関する研究分野に進出し、我が国の人工知能など先進的な情報技術の発展に先導的な役割を果たすとともに、この新しい研究分野を振興するべく計画された新学会の立上げを積極的に支援し、実現した人工知

能学会の初代会長を務められました。新分野の立上げ時には、それを拒否し、あるいは無視する傾向が起ころがちです。本学会発足に際しても周辺の状況は必ずしも好意的といえるものばかりではありませんでしたが、そしてそのような傾向は福村先生と同年代の方々の中に根強くありましたが、その中であって先生は本学会の発足に快くご協力されました。これは以後の人工知能研究への大きな貢献でしたが、将来を見通す先生の目の確かさによるものです。

これは先生の研究姿勢からきております。先生は現状に留まることなく、前向きに進むことによって、常に一歩先を見通し、研究のリーダーシップを取ってこられました。人工知能の研究分野はその後紆余曲折を経て現在に至り、今日、何回目かの大きな発展の時期を迎えておりますが、この過程で、近年は先生ご自身が自ら論文執筆をなさることはありませんでしたが、常に次の研究課題は何かをお考えになり、それを若い研究者を招いて定期的に行ってきたフォーラムなどでお話しされて、直接的・間接的な影響を与えられてきました。

これらの研究業績を背景に先生は日本学術会議情報工学研究連絡会委員を務められるとともに、昭和59年から3年間にわたって実施された当時の文部省科学研究費補助金による特定研究「多元知識情報の知的処理と統合化に関する研究」のもとで、全国大学の研究者をメンバーとする研究組織の代表者として我が国における知識情報処理研究を飛躍的に発展されました。一方、国際的にも1979年人工知能国際会議、1982年ソフトウェア国際会議などの組織委員を務められ、また昭和60年から3年間にわたって、特定研究「日米科学技術協力(工学分野)におけるコンピュータ・ソフトウェアに係る調査研究」の代表者としてソフトウェア分野における日米の第一線研究者の交流と研究の推進に当たるなど幅広く活躍されました。

このような研究活動とともに、先生は長年にわたって情報工学の教育に努められ、その真摯な人柄で、学部学生および大学院学生の教育と研究指導に当たられ、多くの有為な人材を世に送り出されました。今ではその薫陶を受けた優秀な後継者がさらに多くの優秀を生み出しており、これらの若い優秀が今日、学会あるいは産業界の第一線で活躍しております。

先生はこれら専門分野の広い学識を背景に行政、学協会、産業界にも多大の貢献をされております。名をあげていくときりがありませんので省略しますが、文部省(現文部科学省) 学術審議会専門委員をはじめ、多くの委員会などの委員や委員長を引き受けて来られました。また東海地区を中心とする地域社会での情報技術の発展に尽力され、この地域の情報技術を国内でも有数の高いレベルに引き揚げられたご功績は誰もが認めるところです。

福村先生は温厚な紳士で、人格者です。このような書き方をすると生前の先生でしたらしかめ面をなさるかもしれませんが、いつも人を惹きつけてやまない温和なご性格であることは一度でも先生と接触したことがある人なら容易に納得するでしょう。

福村先生がお亡くなりになったことを心から残念に思い、この拙い追悼文を書かせていただきました。今はただ先生のご冥福をお祈りするばかりです。